

令和 2 年 8 月 11 日

< ワンポイント・レッスン（実践） >
（ファット・テール）

ファット・テールとは、（正規）分布から異常に大きく離れたところに、分布の小さな山を形成することを言います。

TOPIX・13 週移動平均乖離率は、下記のグラフにあるように正規分布に近い分布形状となっており、多くは-15%~15%のレンジ内に収まっています。こうしたことから、分布からみて、中心から大きく離れたときは「稀に見る現象なので平均的なゾーンへの回帰が起こる確率が高い」として投資行動に結びつけることが少なくありません。

そして異常に大きく離れたケース。2000 年以降では、2008 年のリーマン・ショック時を除くと、▲20%を超えることはありませんでした。が、今年のコロナショック。3 月 13 日（週末日付）の TOPIX・13 週移動平均乖離率は ▲23.5%、3 月 19 日（同）は▲20.5%と▲20%を上回りました。リーマン・ショックに続いてのファット・テールです。

下記の分布グラフでご確認下さい。通常の分布の範囲をさらに大きく離れてきたという点では、マーケットは異常な局面。特にシステムティックな運用は、例外ゾーンでの対応となります。

アクティブにはどうか…。様々ですが、当時マーケットの状況を思い浮かべて下さい。

TOPIX/13週移動平均乖離率
(2000年1月-2020年7月・週足)

